百目木遺跡

遺跡番号　324 - 059
調査次数　第 1 次
所在地　山形県西村山郡大江町左沢
北緯・東経　38 度 23 分 4.6 秒・140 度 12 分 51.9 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所工務第一課
起因事業　最上川大規模災害関連事業（左沢地区）
調査面積　700㎡
受託期間　令和 7 年 11 月 4 日～令和 8 年 3 月 31 日
現地調査　令和 7 年 11 月 17 日～令和 8 年 2 月 26 日
調査担当者　水戸部秀樹（現場責任者）・大場正善・草野潤平・三浦一樹・結城駿
調査協力　大江町教育委員会
遺跡種別　その他（築跡）
時代　近世・近現代
遺構　築場・建物・舟道等

調査の概要

最上川の増水による洪水被害の対策として、百目木地区の最上川左岸に堤防が整備されることになった。その堤防の設置場所に百目木遺跡が存在することから、発掘調査の実施が必要と判断された。発掘調査と堤防設置工事に際しては、安全確保のため仮締切（図 3）が必要である。令和 7 年度は仮締切に係わる部分の調査となった。

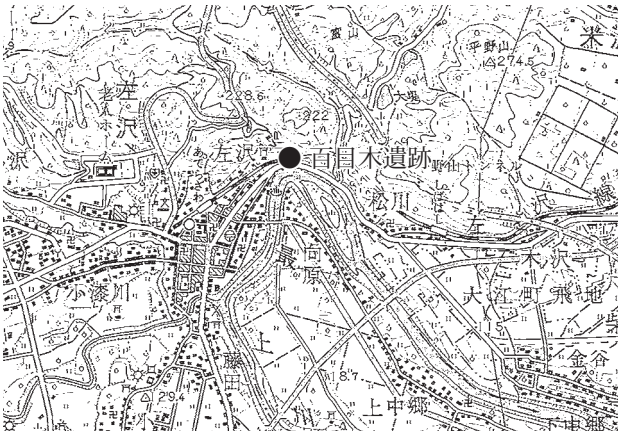
工事では、最上川の左岸に堆積した土砂の一部を取り除くことが予定されていた。遺跡内での土砂掘削であり、何らかの遺構や遺物が認められた場合には記録の作成を行うこととした。また、鋼矢板を打ち込む場所も遺跡内であることから、遺構に与えられる影響が最小限にとどめられているかどうかも確認する必要があった。

百目木遺跡について

近世から現代にかけての築場（図 1）や茶屋が設けられ、各種資料や写真、現地に残る柱穴などにその痕跡が残されている。茶屋には、明治 17 年に歌人である斎藤茂吉、昭和 21 年に高松宮宜仁親王殿下が立ち寄り、料理を楽しんだという記録もある。

舟道について

元禄 6 年（1693）から翌年にかけて、白鷹町荒砥から中山町長崎までの川筋の普請が、米沢藩御用商人である京都の西村久左衛門によって行われた。今回の事業に



遺跡位置図（S ＝ 1:50,000）

先立って行われた百目木付近の川底に対する音響測深調査のデータを分析したところ、普請によって開削されたと考えられる舟道の位置・形状が明らかになった（図 4）。

調査成果

最上川左岸に堆積した土砂を一部取り除いた後の土層を確認したところ、ほとんどが砂であり、河川によって運ばれたものと考えられる（図 2）。この砂層は、昭和 40 年代に整備された護岸コンクリート敷設工事後に堆積したものである。よって、砂層の除去が遺跡に与える影響はないことが確認された。

また、鋼矢板を打ち込む前にドリルで掘削しているが、最上川の川底は岩盤であり、やむを得ないことと判断される。遺跡が受けた影響は少なかったと考えられる。



写真 1　築場の柱痕（北から）



写真 2　最上川左岸に堆積した砂層（南西から）



写真 3　仮締切完了状況（南東から）

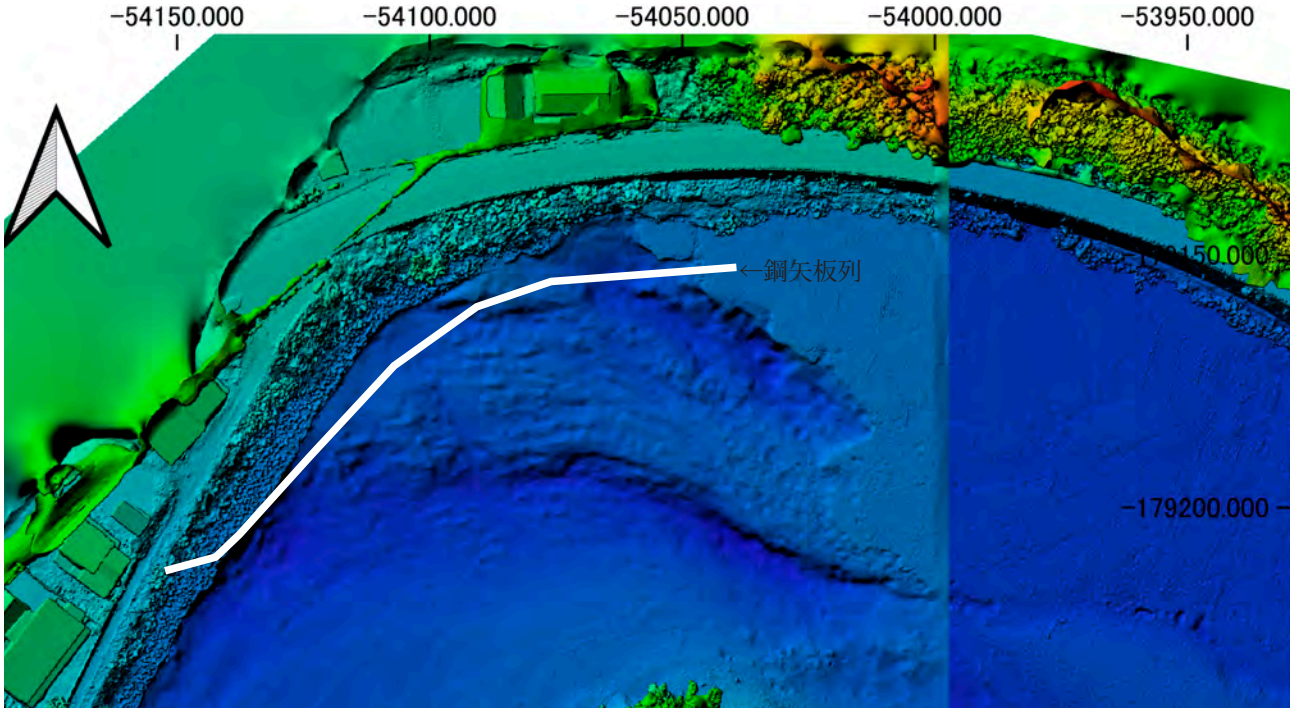


図 1　百目木遺跡の数値標高モデル（川底に舟道を確認）、縮尺 1 / 1500